

令和 8 年度みえ介護生産性向上支援センター運営事業 事業計画

令和 8 年 7 月 6 日

みえ介護生産性向上支援センター運営事業共同体

公益財団法人介護労働安定センター三重支部
一般社団法人三重県介護福祉士会

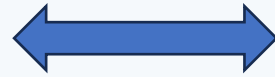
1. 実施体制（1）（共同体）

みえ介護生産性向上支援センター運営事業共同体



公益財団法人 介護労働安定センター

公益財団法人介護労働安定センター三重支部



連携



一般社団法人

三重県介護福祉士会

一般社団法人三重県介護福祉士会

事業実施の共同事業としての効果（基本方針）

- ①同事業を受託している介護労働安定センター他支部（令和7年度：国が実施分2支部、県が実施分20支部）との事業運営に必要な業務連係とその事業を集約する本部機能を有しているため、より事業の効果的な運営が図れます。
- ②全国の介護事業所の雇用管理に関する相談・助言業務及び各種相談業務や事例の収集を実施して知見を事業運営に活かします。
- ③介護福祉士としての現場目線、介護事業所の管理者としての経営管理目線、介護福祉士同士のネットワークを最大限に活用した事業展開が見込めます。
- ④介護ロボットやICT機器の導入を推進することにより、その効果として利用者と介護職員の満足度を高めることに繋がります。また、魅力ある職場づくりに繋げ、直面する介護人材不足の解消の糸口になる事業を目指します。
- ⑤**みえ介護生産性向上支援センター業務受託実績（令和6年度・7年度）から共同体による相談・研修及び展示会への企業の参加等、連携して積み上げた実績を令和8年度事業に引き継ぐことができます。**

1. 実施体制（2）（組織）



公益財団法人 介護労働安定センター



一般社団法人

三重県介護福祉士会

理念・ビジョン	介護を未来にわたって支えるため、働きやすい、働きがいのある職場づくりに貢献します	専門職能として、介護福祉士の資質の向上や介護に関する知識・技術の普及を図り、国民の福祉の増進に寄与する
組織概要	代表理事 藤澤 勝博 職員数 300人（三重支部 6名） （R 8年5月末時点）	会長 甲斐 義典 会員 748人 （R 8年6月末時点）
主な取り組み・実績	○令和8年度事業 ・雇用管理に関する相談業務及び専門家派遣（交付金・県補助事業） ・雇用管理責任者講習 4回実施 ・魅力ある職場づくりセミナー（県事業） 2回 ・介護労働講習（実務者研修含む）＝職業訓練受講者 41名 ・各種研修の企画・運営 ・介護職員等処遇改善加算取得促進支援事業受託	○令和8年度事業 ・介護福祉士取得にむけた研修 ・キャリアアップ研修 ・介護フェア、介護就職フェア（三重県社会福祉協議会・三重労働局）への事業協力 ・研修講師の派遣（介護労働安定センター三重支部、県内高校など多数） ・介護技術コンテスト主催 ・デジタル中核人材養成三重地域開催

1. 実施体制（3）（体制）

事業全体責任者 浦 幸 生

役割	氏名	備考
事業統括	浦 幸生	支部長

役割	氏名	備考
事業周知・相談支援・研修担当	野呂 康之	介護労働サービスインストラクター
事業周知・相談支援・研修担当	岩田 浩二	介護労働サービスインストラクター
相談支援	花崎 正子	介護能力開発アドバイザー
経理全般	倉田 ますみ	介護労働コーディネーター

役割	氏名	備考
事業統括	甲斐 義典	会長

役割	氏名	備考
事業担当	川村 健太	副会長
事業担当	嘉成 光生	理事
事業担当	杉浦 公紀	理事
事業担当	森本 里香	理事

事務局職員 河合まち子
（事業専従）

1. 実施体制（４）講師等一覧（アドバイザーリスト）

コンサルタント（相談助言・伴走支援・研修担当）

◎ 株式会社善光総合研究所

社会福祉法人（施設経営）と全国規模で介護業界の生産性向上に関する各種コンサルタント事業を実施するための研究所を主たる事業とする法人であり、特に、ケアプランデータ連携システムの事業は、全国の7割をカバーする実績を有し、特に宮崎県都城市を全国1位の普及率（36.2%：2024年度）に引き上げた実績をもっている。

◎ アズメド株式会社 代表 西 直哉 氏

三重県においてみえ介護生産性向上支援センター運営事業を開始した令和6年度より専門家としてモデル事業所伴走支援及びアドバイザー派遣を一手に引き受け、支援した事業所からの評価も高いコンサルタントである。また、三重県出身でもあることから地元愛も強い。「三重県の介護現場を日本一働きやすく」をスローガンとして活動。

◎ 生産性向上に関連した各種支援

- 人材育成 小笠原 由起 氏（キャリアコンサルタント）
- 事業継続等 水谷 康裕 氏（中小企業診断士）
- 労働関係法令・処遇改善加算等 豊田 亘 氏（特定社会保険労務士）
- // 岡崎 愛 氏（社会保険労務士）
- // 市川 義正 氏（社会保険労務士／社会福祉士）
- 三重県介護福祉士会会員による研修講師（事業所内を含む）多数在籍。
- その他 介護労働安定センター三重支部委嘱コンサルタント

◎ 事業協力（見学会）

- 社会福祉法人鈴鹿グリーンホーム
- 社会福祉法人恩賜財団三重県済生会介護老人福祉施設明和苑

2. 事業実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談窓口												
広報・関係機関との連携・事業所訪問	チラシ・ポスター・WEBサイト・関連機関・団体、事業所への訪問											
個別支援	生産性向上の取組支援全般：80H 介護テクノロジーの導入支援：80H ケアプランデータ連携システムの導入支援：80H											
伴走支援		募集 5月11日 ～6月5日		支援先の選定・専門家派遣による伴走支援							報告会	
展示会				第1回 名張市 7月14日		志摩市 計画中	第2回 津市 10月7日					
研修会 (生産性向上ガイドライン を主テーマ)				第1回 名張市 7月14日			第2回 津市 10月7日					
介護テクノロジー導入支援研修会		第1回 津市 5月22日	第2回 四日市市 6月17日								第3回	
個別テーマセミナー（課題解決）					第1回 計画中	第1回 計画中		第1回 計画中				
ICT機器貸出			募集期間：6月15日～1月29日（6カ月以上）									
見学会				第1回 6月25日	第2回 8月21日	年間4回以上						
介護現場革新会議				第1回 7月6日							第2回	
関係機関と連携した取組 (ケアプランデータ連携システム)				いなべ市・東員町 7月27日	玉城町 計画中	東紀州地域 予定						

【概要】 介護現場の生産性向上のための総合的な相談窓口を設置。（介護労働安定センター三重支部内）

- ・平日9～17時相談窓口を開設します。（土・日・祝日・年末年始は除く）
- ・専門家派遣の前に当事業担当職員により事業所ニーズの把握など必要な情報収集を行います。（事業所訪問を含む）
- ・生産性向上に関する相談から①専門家派遣、②各種事業を案内、③機器の試用貸出の案内などを行います。

みえ介護生産性向上支援センター

三重県津市羽所町513 サンヒルズ2階

◎公式WEBサイト



◎チラシ・パンフレット・ポスター等による案内

固定電話/FAX（兼用）
059-271-5700

介護事業所



- ・電話・メール、訪問、オンライン面談による対応をとります。
- ・相談内容に応じ、職員が事業所のニーズを把握するため介護事業所を訪問します。
- ・アドバイザーを派遣する場合、初回等、相談内容により事業担当者が同行します。
- ・伴走支援を実施し生産性向上に向けたモデル事業所として、普及・啓発を進めます。

初期ヒアリング。

相談内容に応じた支援の案内。



専門家による
個別相談・
伴走支援



展示会・機
器貸出・見
学会



研修会



関係機関
との連携



4. 個別支援（アドバイザー派遣）

令和 8 年度の新たな取組

○介護テクノロジー導入支援・ケアプランデータ連携システムの導入支援に特化したアドバイザーの追加

	令和 7 年度	令和 8 年度
支援内容	①生産性向上に係る取組全般	①生産性向上に係る取組全般 ②介護テクノロジーの導入 ③ケアプランデータ連携システムの導入
派遣回数	40回	①：80時間 ②、③：それぞれ40時間
事業所あたりの派遣 上限	2 回（1 回当たり 2 時間まで）	5 時間

- 介護現場の生産性向上に向けた主な手段・ツールとなっており、かつ補助金や各種加算の要件となるなど重要度を増している「**介護テクノロジー**」「**ケアプランデータ連携システム**」に係る課題に対して、より専門的な知見から支援ができるよう体制を強化。
- 派遣回数も令和 7 年度：計80時間（40回）⇒令和 8 年度：計160時間と **2 倍に増強**。
- 事業所への派遣上限も増やすことで、それぞれの事業所に対してより個々の課題に寄り添ったきめ細かな支援を目指す。

【目的】 実際の介護ロボットやICT機器に触れることによって、機器の選定や事業所への導入を支援する

- ・公益財団法人テクノエイド協会の福祉用具情報システム（TAIS）を参考に出展メーカーやベンダーに偏りが出ないようにします。
- ・介護ロボットの9大分野（厚生労働省・経済産業省策定のもの（下記参照））の全ての機器の展示を行います。
- ・出展企業を分野別に整理し、試用貸出も積極的に案内を行います。。
- ・メーカーやベンダーには、事業の趣旨を理解のうえ、介護ロボット・ICT導入に向け介護事業所をサポートするものとします。
- ・介護事業所の負担を鑑み研修会と同時開催とします。（一度に展示会と研修会を行うことで来場機会が増える）
- ・三重県の地理的特徴や人口及び過去の開催実績等を勘案のうえ候補地を選定、県長寿介護課の承認の上、決定します。。
- ・一般の方への周知（関係機関やSNS、WEBサイト、など）を図るとともに福祉用具・機器に触れる機会とします。
- ・介護ロボット・ICT機器導入済み施設の見学（伴走支援モデル事業所を含む）により、機器の導入効果の情報収集の場とします。

＜実施概要＞

令和8年度

第1回 名張産業振興センター

令和8年7月14日（火）

参加事業所：30社

第2回 三重県総合文化センターギャラリー

令和8年10月7日（水）

参加事業所：40社（予定）

（参考）令和6年度

第1回 津会場

第2回 四日市会場

（参考）令和7年度

第1回 松阪会場

第2回 桑名会場

（参考）：令和7年度第2回 桑名会場の様子



12 19 2025

【概要】 生産性向上ガイドラインや介護ロボット・ICT機器導入の手引き等を活用した介護現場における生産性向上の取組を実施し、生産性向上の普及効果を高めます。

-研修内容-

・厚生労働省『介護サービス事業における生産性向上（業務改善）に資するガイドライン』『介護サービス事業所におけるICT機器・ソフトウェア導入に関する手引き』などをベースにした研修を行う。
<https://www.mhlw.go.jp/stf/kaigo-seisansei-information.html>

-企画内容-

- ・介護事業所の負担を鑑み展示会と同時開催とし、集客効果を高めます。（参加者：各100名目標）
また、ハイブリッド形式により参加しやすい環境にも配慮したものとする。
- ・研修の時間は90～120分とします。（質問時間含む）
- ・講師は介護現場の生産性向上のための介護ロボットやICT導入の知識を有する経験豊かな専門家が行います。
- ・参加できなかった方などへ、YouTube動画を作成し、ホームページにて視聴できるようにします。
- ・研修後に参加者に対しアンケートを実施します。（集計・分析）

（参考）：令和7年度第1回 松阪会場の様子

<実施概要>

令和8年度

第1回・第2回

【会場・日程】 展示会と同時開催

【テーマ】 ①生産性向上に資するガイドライン

②介護現場における業務改善の進め方

【講師】 株式会社善光会



09 02 2025

令和8年度の新たな取組

○介護テクノロジー導入支援研修会の実施

○介護テクノロジー導入後のミスマッチの防止や活用の促進のため、介護現場の生産性向上の手段としての介護テクノロジーの説明や導入にあたっての注意事項等を紹介する。

<実施概要>

	第1回	第2回	第3回
1. テーマ	①介護テクノロジーの導入にあたっての機器説明及び活用事例紹介 ②介護テクノロジー導入支援研補助金の説明	①介護テクノロジーの導入にあたっての機器説明及び活用事例紹介 ②介護テクノロジー導入支援研補助金の説明	未定 (次年度の介護テクノロジーに向けた内容)
2. 日程	5月22日	6月17日	令和9年2月頃
3. 開催方法	ハイブリット方式（津）	ハイブリット方式（四日市）	ハイブリット方式（未定）
4. 講師	株式会社善光総合研究所	株式会社善光総合研究所	株式会社善光総合研究所

※令和8年度三重県介護テクノロジー導入支援事業補助金（介護テクノロジーの導入に係る経費を補助する）を申請する場合は、本研修会への参加を必須とする。

【概要】

介護事業所や関係団体が抱える生産性向上に係る課題解決のためのセミナー

-内容-

介護サービス事業所や関係団体が抱える生産性向上に係る課題に沿った個別テーマを設定し、各々の課題解決に資するセミナーを3回開催する。

	第1回（予定）	第2回（予定）
1 テーマ	ケアプランデータ連携システムの概要	ケアプランデータ連携システムの活用
2 開催月	8月～9月頃	9月～10月頃
3 対象事業所	ケアプランデータ連携システム対象事業所	ケアプランデータ連携システム対象事業所
4 開催方法	オンライン	オンライン
5 開催時間	90分程度	90分程度
6 プログラム	①ケアプランデータ連携システムについて ②ケアプランデータ連携システムのデモ体験	①ケアプランデータ連携システムの運用開始までの準備 ②ケアプランデータ連携システムの基本操作

※第3回の実施内容は未定

【目的】 実際の機器を自施設で使用することでオペレーションの検討や機器のミスマッチを防止する

- ・試用貸出の際には専用の申込書を使用します。
- ・必要に応じて機器選定のサポートも行い、機器選定には厚生労働省『介護ロボットのパッケージ導入モデル』の「介護ロボット導入のためのフローチャート」を参考にします。
- ・展示会の参加企業は、原則、機器の試用貸出にも協力を依頼します。また、展示会参加企業以外の企業も含めたリストを作成し、相談のあった介護事業所に適宜、資料として提供します。
- ・リストは9大分野（厚生労働省・経済産業省策定のもの）に分け、それぞれの分野において複数製品をリストアップします。
- ・試用貸出期間は、2週間～1か月とします。
- ・特定の企業に偏りが出ないこととしますが、企業の選定は介護事業所の希望（判断）を優先します。
- ・試用貸出後にアンケートを実施し、試用の効果や導入の可否、支援が公正に行われたか否かの確認を行います。

1. 貸出の募集

【貸出申請期間】 令和8年6月15日（月） ～ 令和9年1月29日（金）まで

【貸出実施期間】 令和8年6月15日（月） ～ 令和9年2月26日（金）まで

2. 貸出の流れ

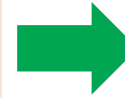
相談窓口
機器選択支援
申込書



リストを介護事業所へ提供



介護事業所が製品を選択



試用貸出
2週間～1か月



貸出終了後
アンケート

10. 伴走支援（1）＜概要＞

【目的】生産性の向上（主に介護ロボットやICT機器を導入を検討）を実施しようとする介護事業所等に生産性の向上に向けた業務内容の見直しやテクノロジーの導入等に係る専門家を派遣し、助言等の支援を行い、支援実施後は三重県のモデル事業所として当該事業に協力・関係し、三重県の介護業界の生産性向上の普及・啓発に寄与する。

- ・事業所の選定は事業開始後、早い時期に公募し、県の承認を受け、支援先を決定します。
- ・支援内容は、機器に関すること、機器導入に向けた具体的な相談及び必要な業務改善（見える化、5 S等）など支援を行います。
- ・支援対象事業所は5事業所とします。なお、応募多数で伴走支援の対象事業所に選定されなかった事業所については、個別相談（5時間）により対応します。
- ・1事業所あたり5回を基本とし、1回あたり1～2時間の専門家派遣（事業体職員の同行、オンライン面談も含む）を行います。
- ・事業終了に合わせて下記2社のコンサルタントによる支援結果と今後のあるべき姿に対する“対談”を報告会を計画します。
- ・伴走型支援終了（機器導入）後も事業実施期間中は電話・メールを基本にサポートを継続します。

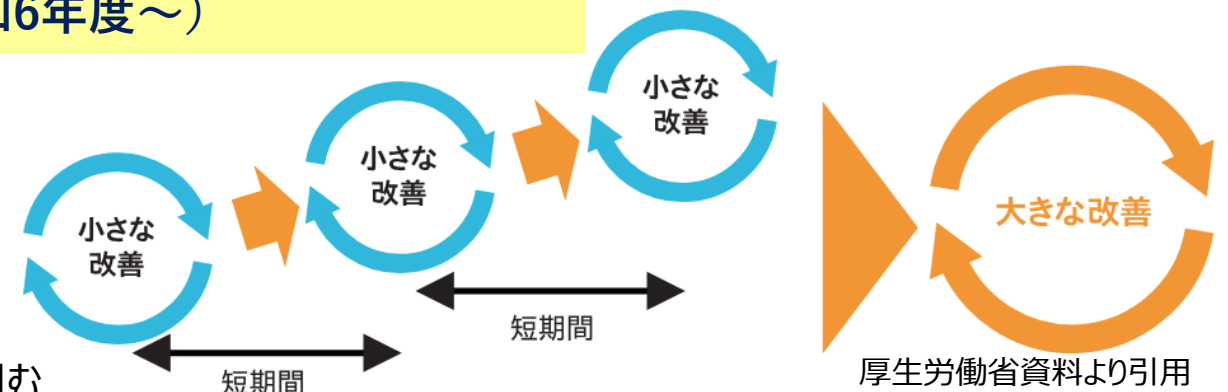
KPIの達成のための取組

募集時の取組課題にあわせ事業本来の目的として設定したKPI（総勤務時間や超過勤務時間の縮減、年次有給休暇の取得拡大等）も見据えた伴走支援により支援の成果を引き出します。

専門家 ◎株式会社善光総合研究所 三重主担当 池谷隆弘氏（令和8年度～）
◎アズメド株式会社 代表 西 直哉氏（令和6年度～）

【伴走支援を成功させるポイント】

- ・プロジェクトに対するモチベーションをキープするサポート
- ・小さな改善事例を早期に創出する
- ・大きな改善は小さな改善の積み重ねにより、丁寧に取り組む
- ・期限を設定し、限られた時間の中でPDCAを意識して取り組む
- ・5回目は、支援後の進める方向性を助言



10. 伴走支援（2）＜実施手順＞

- ・介護事業所によって柔軟に対応内容やスケジュールを提案します。
- ・KPIを設定することで伴走支援後の評価を行いその結果を示します。

伴走支援の一例

1回目

- ・ヒアリング/環境確認
- ・業務の見える化支援（手法）/課題分析支援
- ・事業への目的としてのKPI（生産性向上の成果）

2回目

- ・機器選定支援/選定ミスの回避方法教示
- ・業務の見える化支援（取組結果に対する助言）
- ・ITインフラ確認および導入機器とのマッチング

3回目

- ・機器の企業との打ち合わせ同席
- ・機器導入キックオフ支援

4回目

- ・プロジェクトマネジメント支援
- ・オペレーション策定/手順書作成支援

5回目

- ・オペレーション改定支援/手順書改定支援
- ・KPI設定/評価支援/今後の方向性を助言。

業務の見える化支援（業務時間調査）

業務時間調査票

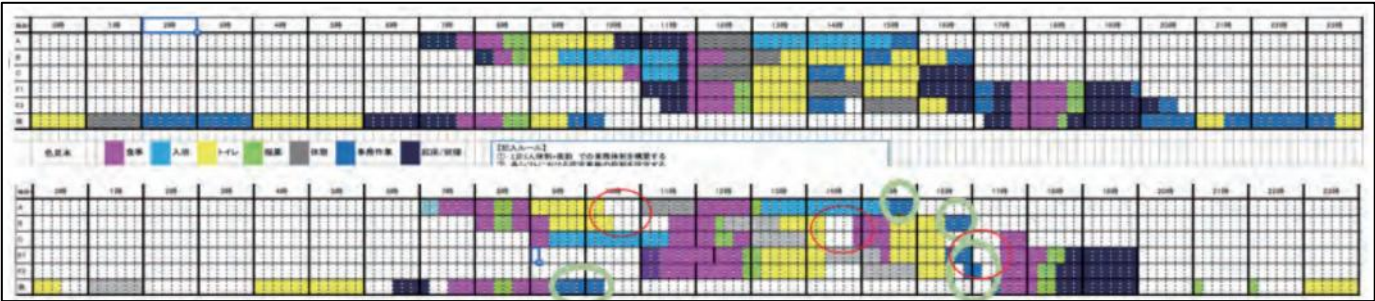
※1 自身の業務を10分単位で記入してください。 ※2 書き方に困ったときは、別紙の表の「業務区分」を参考にしてください。
※3 一覧にない業務の場合は、自由に記載してください。 枠内で業務内容が変わる場合は、より長く実施した項目を記載してください。
※4 「コールが着た」作業だった場合、コール欄の□にチェックを入れてください。

測定日 月 日 ※開始時刻

所属	職員番号	氏名
<年齢> 才	<性別> a 男性 b 女性	<配偶者> a 有 b 無
<職位> a 施設長・部長・課長以上 b 主任・リーダー・サービス提供責任者クラス c 一般職・その他		
<職種> a 医療・看護職 b 介護職 c 技師等専門職 d 事務職		

時間	コール	カテゴリ+ABC	作業単位id	時間	コール	カテゴリ+ABC	作業単位id
(例) 0:00	レ	起床就寝B	19	(例) 12:00	レ		
0:10	□			12:10	□		
0:20	□			12:20	□		
0:30	□			12:30	□		
0:40	□			12:40	□		
0:50	□			12:50	□		
1:00	□			13:00	□		
1:10	□			13:10	□		
1:20	□			13:20	□		

プロジェクトマネジメント支援（進捗管理シート）



厚生労働省資料より引用

10. 伴走支援（3）＜事業所選定＞

1. 選定事業所の応募及び選定

【募集期間】 令和8年5月11日 ～ 令和8年6月5日

番号	法人名	事業所名	所在地	サービス種別	選定
1	社会福祉法人青松園	特別養護老人ホーム青松園	津市	介護老人福祉施設	選定
2	有限会社だいち	ナーシングホームもも四日市	四日市	看護小規模多機能型居宅介護	選定
3	社会福祉法人三重ベタニヤ	地域密着型特別養護老人ホーム グレイスホーム	松阪市	地域密着型介護老人福祉施設入所 者生活介護	選定
4	特定非営利活動法人あいあい	在宅ケアグループあいあい	尾鷲市	居宅介護支援	選定
5	社会福祉法人敬親会	特別養護老人ホームさわやか園	伊賀市	介護老人福祉施設	選定

2. 選定の考え方

- 申込事業所は、過去2年間で専門家派遣を行い、一定、介護現場の生産性向上に向けた取組み方等を理解している事業所であり、今後地域のモデル事業所となる体制が整っている。
- 申込書の「生産性向上に係る取組の実施状況」「現状の課題」「課題解決」「本事業における事業目標」「実行体制」等の記入項目から、本事業を実行し、事業効果を他の事業所へ波及できる体制があると県及びセンターの合議のうえ判断した。

特別養護老人ホーム青松園

基本情報

- ・ 社会福祉法人青松園
- ・ 特別養護老人ホーム青松園（津市高洲町15番43号）
- ・ 利用者数：50名 職員数：26名

報

課題及び課題解決

【課題】○介護現場では多様で細かな日々の記録が多量にあり、それに比例して記録の管理項目も複数となる。また、健康管理上、定期的な把握が必要なバイタルサインや飲食、排泄量等の数値も過去の膨大な記録から統計化することが職員にとって大きな負担となっている。

○上記の記録を基に夜勤待機時間には各担当がケース記録を作成しているが、ケース記録以外に担当入所者の個別支援（衣類チェックや車椅子メンテナンス等）もありケース記録だけをメインにすることができないことがある。

【課題解決】介護記録はタブレットを導入し、記録・共有のリアルタイム化による業務効率化と記録時間の大幅な短縮を図る。

報

事業の目標

目標項目	数値（令和8年5月時点）	数値（令和9年3月時点）
夜勤待機時間での円滑なケース記録の作成	記録完成度 70%	記録完成度 100%
入所者処遇に費やす時間の拡大	時間確保者数 2～3名	時間確保者数 3～5名
より高度かつ正確な予防対策の実現	予防対策維持率 70%	予防対策維持率 100%

ナーシングホームもも四日市

基本情報

- ・ 有限会社だいち
- ・ ナーシングホームもも四日市（四日市市朝明町441番地1）
- ・ 利用者数：29名 職員数：22名

報

課題及び課題解決

- 【課題】 ○目に見える問題の解決のみではなく、システムを活用した現状のケアの分析、業務プロセスの改善（業務の簡素化・効率化）
- 見守りシステム導入後の主に夜間帯でのケア基準の明確化が不十分
- 【課題解決】 見守りシステム導入後の夜勤帯業務の業務内容・プロセスの改善及び業務改善。
- 基本的なノウハウの習得や、職員一人ひとりの生産性向上に対する意識変化がもたらされることによる自走化の実現

報

事業の目標

目標項目	数値（令和8年5月時点）	数値（令和9年3月時点）
夜間訪室回数（利用者1人あたり）	4～5回	2回
転倒・転落事故件数（1施設あたり/月）	2件	0件
時間に追われていると感じている（た）職員の割合	90%	40%

地域密着型特別養護老人ホームグレイスホーム

基本情報

- ・ 社会福祉法人三重ベタニヤ
- ・ 地域密着型特別養護老人ホームグレイスホーム（松阪市岡本町上川原428番地の2）
- ・ 利用者数：29名 職員数：32名

課題及び課題解決

【課題】 ○介護ソフトを使用しているが、記録の仕方が統一できていないことや各ユニットによって入力量の差があることから、記録にとられる時間が依然大きく、ケアの質の確保のための時間が取れない。
○入力した介護記録のデータを共有・確認する方法が確立できていないことにより、職員間での情報共有が十分にできていない。

【課題解決】 介護ソフトによる正確な記録方法の職員間の統一を図ることにより、紙資料の削減や残業時間の減少を目指す。

事業の目標

目標項目	数値（令和8年5月時点）	数値（令和9年3月時点）
職員の残業時間の削減	2, 9 5 0時間	2, 6 5 5時間
紙資料の削減	支援実施前から実施後で5%削減する。	

在宅ケアグループあいあい

基本情報

- ・ 特定非営利活動法人あいあい
- ・ 在宅ケアグループあいあい（尾鷲市矢浜一丁目15番45号）
- ・ 利用者数：200名 職員数：13名

報

課題及び課題解決

【課題】○登録ヘルパーの平均年齢が60代と高く、最新の介護テクノロジーを使用することに強い拒否反応を起こしており、「紙」と「デジタル資料」の二重管理が発生し、かえって業務が増えてしまっている。
○テクノロジーの導入を進めていきたいが、現状の使用状況が芳しくないうえ、上記のような失敗体験があったことから積極的な導入に踏み切れない状況が続いている。

【課題解決】職員へのアンケートにより、現場の声を具体的に可視化し、現場の意見に寄り添いながらAI等も含めた先進テクノロジーの選定・導入・活用を進めていきたい。

事業の目標

目標項目	数値（令和8年5月時点）	数値（令和9年3月時点）
文書量の削減	現状の値から10%削減	
職員の残業時間の削減	現状の値から10%削減	
介護テクノロジー定着率の向上	60%	100%

特別養護老人ホームさわやか園

基本情報

- ・ 社会福祉法人敬親会
- ・ 特別養護老人ホームさわやか園（伊賀市山出字金坪2220番地の10）
- ・ 利用者数：70名 職員数：47名

課題及び課題解決

【課題】 ○介護記録等の手書き作業や転記作業に係る時間が大きいことによる負担や夜間の定期巡回や見守りによる身体的・心理的な負担が依然職員間で残っている。
○介護テクノロジーにより業務が効率化することは一定認知しているが、導入後の業務が不透明なことやそもそも導入した機器を使用できるかについての不安が大きい。

【課題解決】 介護テクノロジーを使用した将来的な介護の姿を見据えてプロセスを整理するとともに、生産性向上推進体制加算Ⅰの取得を目標とし、施設内の事故発生率の減少や介護の質の向上を検討したい。

事業の目標

目標項目	数値（令和8年5月時点）	数値（令和9年3月時点）
業務中の「申し送りや情報共有」に係る負担の軽減	29%	10%
「記録業務」に負担を感じる割合の減少	32%	15%
介護・看護職員の時間外勤務時間数の削減	175時間	140時間

11. その他の取組

○先進事業所への見学会

介護現場における生産性向上に関する取組について、一層理解を深めるため、介護テクノロジーを導入し職場環境改善を推進している先進的な介護事業所を見学する。

【全4回】

第1回 令和8年6月25日（木） 社会福祉法人鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム

第2回 令和8年8月21日（金） 社会福祉法人恩賜財団三重県済生会介護老人福祉施設明和苑

※以降の予定は未定

○関係団体等との取組

・ミニ展示会

①志摩市 令和8年9月 志摩市の福祉イベントへの参画の依頼を受け、計画中

・ケアプランデータ連携システムの導入について

①いなべ市・東員町との共催 令和8年7月27日（月）

②玉城町 計画中

③東紀州地域 第1回：令和8年3月実施（導入） 第2回：計画中（地域連携）